



富士のさと おはなし広場と自然遊び塾

〇趣旨

幼児期における自然体験や本に触れる体験の機会を増やし、自然のもので遊んだり触れたり、さまざまな本に触れたりすることを通して、豊かな人間性を築く基礎を培うとともに、体験活動の重要性の普及と当交流の家の周知を図る。

〇実施した御殿場市内の幼稚園（5園）・保育園（10園）・こども園（1園）

富士岡幼稚園、竈幼稚園、原里幼稚園、原里西幼稚園、玉穂幼稚園、高根学園保育所、高根第一保育園、高根第二保育園、原里第一保育園、原里第二保育園、玉穂第二保育園、双葉保育園、みらい保育園、東保育園、富岳保育園、印野こども園

※申込園数は23園だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で今年度は15園の実施となった。

（すみれ保育園、神山認定こども園は実施時期が連携事業期間ではなかったため、交流の家職員のみでの対応となった。）

〇活動の流れ

1つの活動を基本20分間（5歳児の箸づくりおよび釘打ちは45分間）とし、3つの活動をローテーションで実施した。（下記は、基本的なタイムスケジュール 園によっては年長のみでの対応）

	開始～0:20 (20分間)	移動 (10分間)	0:30～0:50 (20分間)	移動 (10分間)	1:00～1:20 (20分間)
3歳児	絵本の読み聞かせ (室内)		削り華(かんなくず)を使った活動 (室内)		身体を動かす活動 (室外)
4歳児	すべラップづくり (室内)		身体を動かす活動 (室外)		絵本の読み聞かせ (室内)
5歳児	身体を動かす活動 (室外)		絵本の読み聞かせ (室内)		箸づくり or 釘打ち 【※45分間】(室内)

〇内容（活動の様子）

（1）絵本の読み聞かせ 運営：御殿場市立図書館ボランティア

図書館ボランティアが年齢に応じて自然に関する内容の絵本を選定し、読み聞かせを行った。本に対する興味・関心を持たせるように、大型絵本を用いたり、話し手の口元が見えるようにクリアマスクを着用したりすることで、園児たちは、絵本の世界にのめり込んで、話に耳を傾けていた。



（2）自然のものを使った創作活動 運営：中央青少年交流の家職員

園児の発達段階に応じた道具や作業工程を取り入れた創作活動を行った。5歳児の「箸づくり」は、かなで木を削り、箸の形にした後、紙やすりで仕上げを行った。また、今年度は「釘打ち」も選択できるように準備を進めた。釘を打つ際、怪我をしない為の補助具を作成することで安全に作業できるようにし、後に輪ゴムをかけることで活動後も様々な形を創造するなど、継続的に使用できるよう工夫した。4歳児の「すべラップづくり」は、紙やすりを使って木の表面をつるつるに磨き、最後にストラップの紐を通した。3歳児の「削り華（かんなくず）を使った遊び」は、削り華に触れ、香りを感じたり、長さを比べたりすることで、言語活動につながるようなしかけを行った。活動の最後には、年輪（木の年齢）や木で作られている物の話をし、身の周りにあるものや自然を大切にすることの大切さを伝える。

【釘打ち 完成品】



【釘打ち 作業中】



【削り華を使った遊び】



(3) 体を動かす活動 運営：中央青少年交流の家職員

園庭に「丸太や切り株」「スラックライン」「バランスビーム」等をサーキットコースに見立てて設置した。「丸太渡りやスラックライン」では、園児は手を広げてバランスをとり、落ちてもしらめることなく何度も挑戦した。コロナ禍で道具の共用が難しいことを鑑み、過年度とは異なる遊具を用意したり、動きを指定したりすることで、園児たちに新しい体験を提供することができた。「少しずつできるようになった。」「手を握らないでやってみる。」「今年は手を繋ぐなくてもできたよ。」と、積極的に活動する園児や、成長を実感した園の先生方も多数いた。また、順番を守ったり、「こうするとできるよ」「頑張っ！」と仲間を励ましたり思いやりたりする姿も多く見られた。単に体を動かす活動をするだけでなく、丈夫な体を作るためには、運動の他にも「早寝・早起き・朝ごはん」といった規則正しい生活習慣が大切であることも活動の前後に繰り返し園児に伝え続けている。

【あそびの約束】



【丸太渡り】



【スラックライン】



○実施における留意事項

本年度の実施にあたり、引き続き新型コロナウイルス感染予防の視点を交えて、全ての園で事前の打ち合わせを行った。緊急事態宣言などの社会情勢を考慮し、臨機応変に日程変更を行うなど、安全に事業を実施するため、より良い時期を模索しながら事業を行うこととした。交流の家としても感染症対策の徹底を継続し、図書館ボランティアの皆さんにクリアマスクを配付し、読み聞かせの時に口元が見えるように働きかけている。

《園からの声》

- コロナ禍で行事などを行いにくい中、こうした体験ができ、嬉しく思います。
- 普段触れることのない素材（かんなくず）に親しめ、良い経験になりました。匂いを感じたり、手触りを知ったりすることができて良かったです。
- コロナ対策をしながら、マスク着用でも、表情豊かに接していただき、それが子どもたちに届いていました。ありがとうございました。
- 釘打ちについて、途中から使う補助器具は安全性も高く、こういったやり方があるという点で勉強になりました。デザインも様々なものができ、繰り返し遊べ、楽しそうでした。
- 釘打ちは一斉指導できる点が良く、職員も広い視野で子どもたちの様子を見ることができました。選択できることで、園や子どもの実態に応じて活動させられることは大変ありがたかったです。
- おはなし広場では、読んで下さった方の優しい雰囲気、子どもたちも安心、集中して絵本を見られたと思います。
- 絵本は身近な「アリ」だったので、その後外へ出てアリの動きを観察したり、図鑑などを持ってきて調べたりしていました。読み聞かせが実生活に繋がるのだと改めて感じました。

《成果と課題》

- コロナ禍の中、感染予防対策を講じながら、自然を取り入れた活動を経験することができた。また、昨年度実施できなかった園にも訪問することができ、園児たちに体験活動を提供することができた。
- 指導に関しては事業担当者だけでなく多くの職員が担当することによって、職員の指導力向上に繋がると同時に、シフト制勤務の中でも柔軟な対応をすることが可能になった。
- 創作活動を増やし選択制にすることで、園の実情や園児の発達段階に応じた活動を展開できた。また、釘打ちに関しては安全管理がしやすい一斉指導ができる点、そして釘に輪ゴムをかけてデザインする点により、自主的かつ想像的な力を養うことへ繋げることができた。
- 来年度以降、コロナ禍の収束を考慮して、実施時期や内容の精査をしていく必要がある。